

加計学園

「総理の代わりに言う」新学部で首相補佐官要求

毎日新聞 2017年5月31日

文部科学省の前川喜平前事務次官は30日、学校法人「加計学園」（岡山市）による国家戦略特区を利用した獣医学部の新設計画を巡って、和泉洋人首相補佐官から昨年秋、開学手続きを急ぐよう要求された経緯を公表した。和泉氏は「総理は自分の口からは言えないから、私が代わりに言う」と述べたという。同学園は安倍晋三首相の友人、加計孝太郎氏が理事長を務めており、民進党は前川氏とともに和泉氏の証人喚問を要求する。

前川氏は代理人の弁護士を通じて報道各社に文書を配布した。それによると、前川氏は昨年9月上旬、首相官邸の補佐官執務室に呼ばれ、和泉氏から獣医学部設置の特例について文科省が早く対応するよう要請された。前川氏は文科省専門教育課に和泉氏と面会したことを伝えたが、松野博一文科相には報告しなかった。昨年10月半ばにも官邸で和泉氏と会ったという。

この日は、加計学園と政府の接点として新たな事実が浮上した。

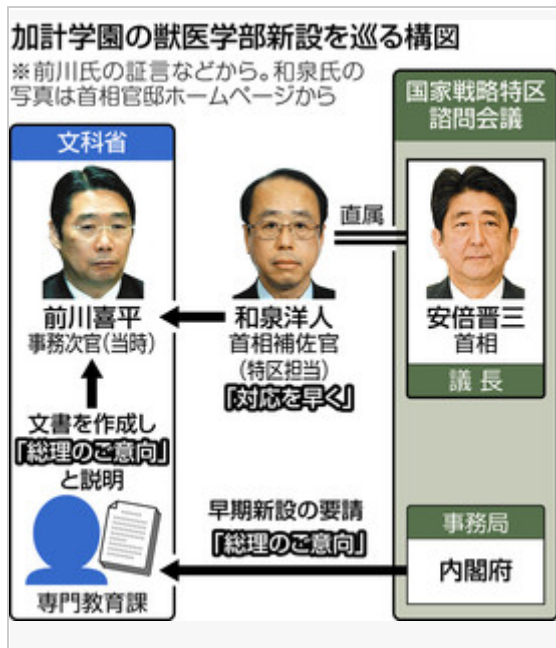
首相は参院法務委員会で、1993年衆院選で初当選した後の数年間、加計学園の役員に就き、1年間に14万円の報酬を受けていたことを明らかにした。国家戦略特区を担う山本幸三地方創生担当相も記者会見で、昨年9月7日に加計氏から獣医学部新設の陳情を受けたことを認めた。

しかし、首相は参院法務委で「岩盤規制を改革し、成長戦略をしっかりと前に進めていくのが安倍政権の基本的な姿勢だ」と述べ、計画は成長戦略の一環だと強調。前川氏や野党を「抵抗勢力」に見立て、「屈せずに改革を前に進めていく」と正当性を主張した。

山本氏は会見で、計画の経緯をまとめた文書を配り、旧民主党の鳩山由紀夫内閣が「対応不可」から「実現に向け検討」に格上げした案件を安倍内閣が引き継いだと説明。菅義偉官房長官も会見で「安倍政権になって急に出てきたわけではない」と反論した。【朝日弘行、影山哲也】

「総理は言えないから私が言う」 獣医学部新設、首相補佐官から要請

東京新聞 2017年5月31日



安倍晋三首相の友人が理事長を務める学校法人「加計（かけ）学園」の獣医学部新設計画を巡り、前川喜平・文部科学省前事務次官が在職中の昨年九月、和泉洋人（いずみひろと）首相補佐官から学部新設の対応を急ぐよう直接要請されていたことを、三十日に明らかにした。和泉氏からは「総理は自分の口からは言えないから、私が代わりに言う」との趣旨の発言もあったとしている。

国家戦略特区を担当する内閣府が文科省担当課に学部の早期開設を迫った文書に続き、安倍首相の側近によるハイレベルな働き掛けを前川氏が認めたことで、同氏の証人喚問など徹底解明を求める野党の声が強まりそうだ。

前川氏が三十日に弁護士を通じて報道各社に送ったコメントによると、昨年九月上旬、和泉氏に呼ばれて官邸内の和泉氏の執務室で面会した。獣医学部設置の特例について「文科省の対応を早くしてほしい」と求められ、前川氏は了承した。担当する文科省専門教育課に面会の趣旨を伝える一方、松野博一文科相には報告しなかった。さらに昨年十月半ばに再び和泉氏に呼ばれ、官邸で面会。学部新設に向けた状況について質問があり、「引き続き検討中」と答えたという。

国家戦略特区による獣医学部新設を巡っては「総理のご意向」「官邸の最高レベルが言っていること」などとして、内閣府が慎重姿勢の文科省に対し、早期開設を迫っていた文書の存在が浮上。前川氏は今月二十五日の記者会見で、昨年九～十月に「担当の専門教育課から報告を受けた際に示された文書。確実に存在していた」「行政がゆがめられた」と証言した。

◇

菅義偉（すがよしひで）官房長官は会見で「前川さんが勝手に言われていること」として、調査する考えがないことを明らかにした。また松野博一文科相は会見で、和泉氏の要請を把握していないと述べた。

◆和泉補佐官は発言否定

和泉洋人首相補佐官は三十日、共同通信などの取材に応じ前川喜平前事務次官のコメントに対し「そんなことを言った覚えはない。総理からの指示もない」と述べた。前川氏との面会については「会ったことはあるが記録が残っていないので確認できない」と述べた。

（社説）加計学園問題 論点をすり替えるな

朝日新聞 2017年5月31日

安倍首相の友人が理事長を務める学校法人「加計（かけ）学園」の獣医学部新設計画をめぐり、前文部科学事務次官の前川喜平氏が新たな証言をした。

昨年9～10月、和泉洋人・首相補佐官に首相官邸に複数回呼ばれ、新設を認める規制改革を早く進めるよう求められた。和泉氏はその際、「総理は自分の口から言えないから、私が代わって言う」と述べたという。

事実なら、すでに明らかになった内閣府からの求めに加え、首相補佐官も「総理」の名を直接あげて、文科省に働きかけていたことになる。

証言は、国家戦略特区という政権の目玉政策に公私混同があった疑いを抱かせる。国政への信頼がいっそう揺らいでいることを政権は自覚すべきだ。

信じられないのは、事実関係を調査し、国民に対して説明する姿勢が首相らにまったく見られないことだ。

菅官房長官は記者会見で政府として調査はしないとし、「前川さんが勝手に言っていることに、いちいち政府として答えることはない」と突き放した。

首相は国会で「改革を進めていくうえでは常に抵抗勢力がある。抵抗勢力に屈せずしつかりと改革を前に進めていくことが大切だ」と述べた。

だが今回、問われているのは特区で獣医学部新設を認めることの是非ではない。トップダウンで規制に風穴を開ける特区である以上、首相が指導力を発揮すること自体は当然あろう。

問題はその手続きが公平、公正で透明であるかどうかだ。

行政府として当然の責務を安倍政権は軽んじている。そう思わざるをえない証言や文書がこれだけ明らかになっている。

特区であれ、通常の政策であれ、行政府として、それを進める手続きが妥当であると国民や国会から納得がえられるようなものでなくてはならない。

なのに首相は自ら調べようとせず、「私が知り合いだから頼むと言ったことは一度もない。そうではないというなら証明してほしい」と野党に立証責任を転嫁するような発言をした。考え違いもはなはだしい。

政府が説明責任を果たさないなら、国会が事実究明の役割を担う必要がある。前川氏はじめ関係者の国会招致が不可欠だ。

自民党の竹下亘国会対策委員長が前川氏の証人喚問について「政治の本質になんの関係もない」と拒んでいることは、まったく同意できない。

問われているのは、政治が信頼に足るかどうかだ。それは政治の本質にかかわらないのか。

首相補佐官「総理は言えないから私が」

「加計」で談話 前川前次官「間違いない事実」

しんぶん赤旗 2017年5月31日(水)

安倍晋三首相の友人が理事長の学校法人「加計(かけ)学園」(岡山市)をめぐる問題で、文部科学省の前川喜平・前事務次官は30日、談話を発表し、昨年9月に和泉洋人首相補佐官から「総理は自分の口からは言えないから、私が代わりに言う」と言われ、国家戦略特区による獣医学部設置の対応を早くするよう求められたことを明らかにしました。和泉氏から前川氏に獣医学部設置を進めるよう要請があった事実は、本紙も文科省関係者の証言をもとに報道(30日付)しています。

談話によると、前川氏は昨年9月上旬に、和泉氏から官邸に呼ばれました。補佐官執務室で和泉氏は、「国家戦略特区における獣医学部設置の特例について、文部科学省の対応を早くしてほしい」と求めたとしています。その際、和泉氏から「総理は自分の口からは言えないから、私が代わりに言う」という趣旨の発言があったと伝えています。

前川氏は承ったとの旨を和泉氏に伝えたうえ、文科省の専門教育課に面会の趣旨だけを伝達。松野博一文科相には報告しなかったとしています。

昨年10月半ばにも、前川氏は和泉氏から呼ばれて官邸で面談。獣医学部設置の状況について質問され、「引き続き検討中」などと答えたとしています。一連の出来事について、前川氏は談話で、「間違いない事実」と述べています。

和泉氏が前川氏に要請した昨年9～10月は、内閣府が「総理のご意向」などとして、文科省に獣医学部の2018年4月開学を前提に進めるよう迫っていた時期でした。前川氏は25日の会見で、「国家戦略特区で議論している対象は、加計学園の獣医学部という共通認識で仕事をしていた」と明言しています。

和泉氏は2013年1月に首相補佐官に就任。内閣官房で地方創生などを担当しています。

安倍首相

過去に加計役員「報酬、1年で14万円」参院委

毎日新聞 2017年5月30日

安倍晋三首相は30日の参院法務委員会で、友人が理事長を務める学校法人「加計学園」(岡山市)の役員を過去に務めていたと明らかにした。同学園の獣医学部新設に関しては、「(理事長が)知り合いだから頼む、と(政府内で)言ったことは一度もない」と述べ、便宜を図ったことはないかと改めて否定した。

首相は役員就任について「(1993年の衆院選で初めて)当選した当初、相当昔だが数年間、監査かそうしたものを務めた。1年間に14万円の報酬を受けた」と説明。「はるか昔のことだ」として問題はないとした。首相が2000年に衆院に提出した書類によると、99年に加計学園グループの学校法人「広島加計学園」の監事を務め、所得報告書に報酬を受けていたと記載している。

また、首相は野党が求める文部科学省の前川喜平前事務次官の証人喚問について「委員会（国会）が決めることだ」と改めて述べた。これに先立ち、自民、公明両党の幹事長は東京都内で会談し、前川氏の喚問には応じない方針を再確認した。【高橋恵子、高橋克哉】

首相補佐官が前次官に要請 新設手続き「早く」

毎日新聞 2017年5月27日

獣医学部計画で16年秋に働きかけられたと省内に伝える

安倍晋三首相の友人が理事長を務める学校法人加計（かけ）学園（岡山市）が国家戦略特区で獣医学部を新設する計画について、文部科学省の前川喜平前事務次官が在職中の昨年秋、首相補佐官に呼ばれて開学の手続きを急ぐよう働きかけられたと省内に伝えていたことが関係者の話で分かった。開学を巡っては内閣府が文科省に「総理のご意向」と伝えたことを記録したとされる文書の存在が明らかになっているが、同時期に、首相周辺からも同省に迅速な対応を求めている可能性が浮上した。

関係者によると、前川氏は昨年秋ごろ、官邸の和泉洋人首相補佐官に呼ばれて、特区での獣医学部の新設について協議。文科省は2003年3月に「獣医学部の新設は認めない」との告示を出していたことから新設に慎重な姿勢を示していたことを踏まえ、和泉氏は告示改正の手続きに向けて「（大学を所管する）高等教育局に早くしてもらいたい」と要求したという。前川氏は「（文科）大臣が判断されること」と明言を避けたとされる。こうした経緯は前川氏から文科省の複数の幹部に伝えられた。

一方、松野博一文科相は文書の存在が発覚した17日の衆院文部科学委員会で「官邸、首相から直接の指示があったのかということであれば、指示は全くない」と官邸側の働きかけを否定し食い違いを見せている。

文科省の告示は今年1月に「国家戦略特区で18年4月に開校できる1校に限り認可する」との例外規定を加えて改正された。

前川氏は25日の記者会見で、「文書は真正なもの」と証言。文科省に「総理のご意向」と伝えたとされる内閣府の藤原豊審議官は18日の衆院農林水産委員会で「内閣府として『総理のご意向』などと申し上げたことはない」と否定している。

和泉氏は13年1月、首相補佐官に就任。「地方創生」担当を務める。和泉氏は前川氏への要求について「面会については記録が残っておらず、確認できません」と文書で回答した。【杉本修作】

獣医学部新設の規制緩和

政府の国家戦略特区諮問会議は2016年11月、「広域的に獣医師系養成大学等の存在しない地域に限り獣医学部の新設を可能とする」との規制緩和を決めた。当時、京都産業大（京都市）も学部新設を希望していたが、大阪府内に獣医師養成課程を設ける大学があり、京産大側は「『広域的に存在しない地域』と限定されると関西圏では難しい」として断

念。一方、加計学園は愛媛県今治市で新設を計画。四国には獣医学部がなく、同学園は17年1月、獣医学部を設置する事業者として認定された。

「総理のご意向」文書を告発 前川前次官は怖いもの知らず

日刊ゲンダイ 2017年5月26日

「文書は間違いなく本物。大臣や次官への説明用として担当の高等教育局専門課が作成した」——。メガトン級の内部告発だ。加計学園の獣医学部新設を巡る「総理のご意向」文書について、文科省前事務次官の前川喜平氏が25日発売の週刊文春で「本物」と認定。安倍首相の「威光」をカサに着た内閣府サイドの圧力の実態をブチまけた。前川氏は同日の朝日新聞にも登場、TBSの取材にも応じている。

当時の文科省トップが「正式な文書」と認めた記録を、勝手に「怪文書」と決めつけた菅官房長官は国民に詫び、首を差し出すのがスジ。ところが、前川氏の“風俗通い”をネタに今なお開き直った強弁を繰り返す。とんだ恥知らずだ。

■官邸はいまだに「怪文書」扱い

〈官邸の最高レベルが言っている〉

〈「できない」という選択肢はない〉

居丈高な態度で筋の通らない要求を強引に迫る内閣府・地方創生推進事務局の藤原豊審議官らの発言記録を一つ一つ、前川氏は文春の取材に「事実」と認め、知る限りの経緯を証言している。

8年間で15回も申請を蹴られた獣医学部新設のスピード内定の出来レース。安倍の「腹心の友」の希望通り、行政が歪められた実態を前川氏は『赤信号を青信号にしろ』と迫られた」と表現。問題の〈総理のご意向〉という言葉については、こう語る。

「ここまで強い言葉はこれまで見たことがなかった。プレッシャーを感じなかったと言えればそれは嘘になります」

そして『これは赤です。青に見えません』と言い続けるべきだった。本当に忸怩たる思いです」と反省の言葉を口にしているのだ。

文科省の当時の最高責任者がここまで腹をくくって証言した以上、首相の“腹心の友”への便宜供与を裏付ける文書の内容は、ますます信憑性を帯びてくる。

ところが、安倍官邸は懲りない。松野博一文科相がお手盛り内部調査で、「文書の存在は確認できなかった」と発表したのをタテに、菅官房長官は「出所不明」の怪文書扱いを続けている。

「官邸サイドが裏で繰り返すのは、前川氏が政権に怨恨を抱いているとのレッテル貼り。天下りの組織的あっせん問題の責任を取り、わずか半年の任期で依願退職に追い込まれたことに、前川氏は恨み骨髄。ありもしない文書をデッチ上げ、メディアに持ちかけた『自作自演』のシナリオを吹聴しています」（官邸事情通）

そこに追い打ちをかけたのが、例の“出会い系バー”常連報道で、官邸サイドは「あん

なハレンチ漢の証言を信用したら痛い目に遭うぞ」と、メディアに妙な“恫喝”を加えているという。

「安倍首相が『私が働きかけて決めているなら責任を取る』と大見えを切った手前、菅官房長官らは“怪文書”と言い張るしかないのでしょうか。とはいえ、文書の信憑性と次官の風俗通いは無関係。政権が強弁すれば、シロもクロになるような振る舞いは、『恥を知れ』の一言です」（政治評論家・本澤二郎氏）

■待ち受けるさらなる暴露

前川氏は、年商812億円を誇る世界的な産業用冷蔵冷凍機器メーカー「前川製作所」の御曹司で、妹は中曽根弘文元外相に嫁いだ“華麗なる一族”の出だ。

当然、官邸の横やりで天下り先を失っても困らないため、政権の裏側で何が起きているのか、その腐敗の真相を遠慮なく暴露できる。

すでに「告白の内容はまだおとなしい。昨年12月に新設が合意に至る直前の“ご意向”圧力は特に凄まじかったようです。まだ表に出ていない文書もあるはず。前川氏は面倒見がよく、人望がありますから、歴代次官OBや“奇兵隊”と称する後輩の現職官僚も味方しています」（文科省関係筋）との声もある。

民進党も前川氏の疑惑追及チームへの出席や、国会招致も視野に入れている。さらなる決定打が飛び出せば、安倍首相は政権発足以来最大の窮地に立たされる。

疑惑続々！ 森友と加計学園をつないだアッキー

サンデー毎日 2017年5月23日

▼国有地投げ売り「核心の共謀メール」

森友学園問題で「新証拠」が浮上する一方、安倍晋三首相の「腹心の友」が経営する加計学園についての疑惑が表面化した。両学園には接点があり、彼らを結びつけたのは、ほかならぬ安倍昭恵氏だった。

「私が思っていたのと違うので、皆さんにお見せしないといけないと思った」

森友学園（大阪市淀川区）の籠池泰典前理事長は5月16日、再び民進党のヒアリングに応じ、“安倍晋三記念小学校”の建設用地として取得した国有地（大阪府豊中市）の価格交渉についての関係者の電子メールを公表した。

メールは複数ある。昨年4月1～10日、近畿財務局、大阪航空局の担当者、森友学園から受注した藤原工業（大阪府吹田市）、設計業者、そして当時の学園の顧問弁護士、酒井康生氏の間でやり取りされたものだ。学園が運営する塚本幼稚園のアドレスにも参考で送られており、それが残っていたという。

なぜ今、公開したのか。籠池氏はこう説明した。

「私はメールを一切、やらないもので、幼稚園の事務方が紙にプリントして見せてくれた」

つまり、最近になってメールの存在を思い出したということらしい。

メールのやり取りがあった時期について振り返ると、昨年3月11日に校地の深い層から「新たなごみ」が出たと業者から聞かされた籠池氏は、財務局に対応を要請。財務局や航空局の担当者が、現地を視察し、積み上げられた「新たなごみ」を確認したとされる。

こうした動きの中で、籠池氏は「新たなごみがあるのなら、値引きされるのでは」と考え、定期借地契約を結んでいた国有地の購入を改めて申し出た。価格交渉については、酒井弁護士に一任したという。

役人が「小学校開設ありがとう」

政府は、くい掘削工事中に、想定外のごみが大量に見つかったと説明している。ところが、弁護士と設計業者間の「作戦会議」メールには、「新たなごみ」を客観的に示す資料がないことから、苦心する様子が記されていた。

昨年4月9日、酒井弁護士が設計業者に宛てたとされるメールにはこうある。

〈柱状図がないことは不自然でしょうか。求められてから提出するようにはできるのであれば幸いです（中略）柱状図ではあらわれていないが、廃棄物が混じっているということ、付記するとか理屈を考えることはできませんでしょうか〉

財務局から、建設前に学園が実施したボーリングデータの提出を求められていたが、データにごみの存在が反映されていないことから、躊躇(ちゅうちょ)していたことがうかがえる。設計業者からの返信はこうだ。

〈実際のボーリングデータで産廃が3m(メートル)以深では無い→敷地全体でも無いであろうと推測できる→実際にボーリングしましょう→産廃が3m以深では無い→じゃあ、そんなに引けないですよ、、、、という正論で負けてしまいそう〉

詳細に調査すれば、「新たなごみ」など存在しないことが明らかになると、恐れているように読める。本誌が繰り返し指摘した通り、新たに出たごみは、前年の土壤汚染除去工事の際に取り除かれなかった廃棄物である可能性がより強くなったと言えるだろう。

メールについて、酒井弁護士や設計業者は取材に応じなかった。財務省理財局は次のように答えた。

「財務局担当者は、詳細は覚えていない。早急に対応する必要がある中、関係者とメールのやり取りをしたことはあった。メールは既に削除している」

その財務局の担当者が設計業者に送ったとされるメールは、さらに違和感を感じさせるものだった。

〈瑞穂の國記念小學院開校に向けご協力いただきありがとうございます〉

要するに、国有地を売る側の役人が、学園側に謝辞を述べているのだ。ヒアリングでは、民進党議員から「国立安倍晋三小学校じゃないか」との揶揄(やゆ)の声が上がった。揶揄はいうまでもなく、小学校の名誉校長だった首相の妻昭恵氏を意識したものだ。

土地取得に関する交渉がスムーズになってきた時期について、籠池氏は「顕著になったのは、昭恵夫人が名誉校長に就任してから。それまでも風はあったが、台風みたいになった」と語っている。

ヒアリングの翌17日、『朝日新聞』のスクープに注目が集まった。学校法人・加計(かけ)学園(岡山市北区)が愛媛県今治市の国家戦略特区で開設を計画している岡山理科大学獣医学部について、特区を担当する内閣府から「総理のご意向だと聞いている」などと言われたとする文書を、文部科学省が作成していたと指摘したのだ。

首相と同学園の関係について、自民党議員は「理事長の加計孝太郎氏と総理は、南カリフォルニア大留学時に知り合った。たびたび、ゴルフを楽しむ仲です」。今治市が、約17ヘクタールの市有地を建設用地として無償提供したうえ、96億円の補助金を出すことから、「第二の森友学園疑惑」ともいわれてきた。

実は、両学園には接点があった。森友学園関係者によると、現理事長の籠池町浪(ちなみ)氏と職員が2015年10月14日、保育施設「御影インターナショナルこども園」(神戸市東灘区)▽泰典氏と町浪氏らが昨年2月15日、「英数学館小学校」(広島県福山市)——を視察している。いずれも、加計学園の系列施設だ。

森友関係者が明かす。

「昭恵夫人はこども園の名誉園長であり、『すごく良い教育をしている学校があるから見学しては』と勧められた。広島の小学校も同様です」

首相にとって加計学園とは、夫婦ぐるみで「ずぶずぶの関係」というわけだ。加計学園を巡る文書について、松野博一文科相は「確認できなかった」とした。だが、記載内容から信憑(しんぴょう)性は高いとみられる。

「書いたものが物を言う」ということわざがある。どう言い繕っても、二つの疑惑にまつわる文書が政権をじわじわと追い詰めているのだ。

(本誌・花牟礼紀仁)

松尾貴史のちょっと違和感

安倍首相の国会答弁 あまりに下品で不誠実で幼稚

毎日新聞 2017年5月21日

民進党の福島伸享衆院議員が、まさに安倍昭恵氏と森友学園のズブズブの関係について質（ただ）したのに対し、安倍晋三総理大臣が「ズブズブの関係とか、そういう品の悪い言葉を使うのはやめたほうがいい。それが民進党の支持率に出ている」とまたぞろ、まるで答えにならない答弁をした。自身が夫婦ぐるみで不適切な関係であったことを何とか隠し通したいという焦りから出た抗弁なのだろうけれども、これはあまりにも下品ではないか。

第一、中身に正面から答えず、言葉尻を捕まえてなじることで時間を消費して答弁したふりをしているだけで、あまりにも不誠実だ。「ズブズブ」が「品の悪い言葉」だということは初めて聞いたが、公の場で相手を「品が悪い」と表明することのほうが、よほど下品だと思う。その語句に、異常な後ろめたさや恐怖を感じるからこそその過剰反応であることは想像に難くない。

さて、その安倍総理は昨年の北海道5区の補欠選挙について、「民進党と共産党がこんなにズブズブの関係になった選挙は初めて」と語っていたが、自分は使っている言葉も、野党の議員が使うのは品が悪いという、いつも通りの矛盾したその場凌（しの）ぎだ。

この、自分だけは特別の存在だという尊大で不遜な振る舞いは、そもそも品の悪い総理だからもう何も期待はしていないけれども、「ズブズブの関係である」ことと「民進党の支持率」とは何の関係もない。聞かれたことに答えずに時間と税金を無駄遣いする総理大臣としか見えない。

そもそも（「基本的に」という意味があることを閣議決定）、聞かれたくない質問をされたら、相手の党の支持率が低いことをあげつらうのが、為政者というよりも大の大人がすることだろうか。内容について反論できないから、相手が嫌がることを言うというのであれば、子供の喧嘩（けんか）の古典的な台詞（せりふ）の「お前の母ちゃんデベソ」とレベルが変わらない。

タレントがテレビ番組で司会者から聞かれたくない質問を受けて、「そんな品の悪い質問をしないでください。だからこの番組は視聴率が低いんですよ」などと言おうものなら、二度とその局からお呼びがかからないだろうし、商店街の隣同士でちょっとしたトラブルがあったときに、「そんなことを言っているからあんたの店は売り上げが伸びないんだよ」などと言ってしまったら、末代まで犬猿の仲になるだろうし、国同士の折衝で要求をのみたくないときに「そんな品の悪い条件を提示しないでいただきたい。それがおたくの国のGDP（国内総生産）の低さに反映されているのです」などと言うならば、外交の体をなさない。

国会議員や閣僚は、国民の代表として参加しているお互いを尊重し、敬意を払うべきであって、総理大臣は正面から横綱相撲を取らなければいけないと思うのだけれども、我が国の代表者は保身のために国会の権威や品位など汚しても後は野となれ山となれという風情だ。

「人を指さすのはやめたほうがいいですよ」とも言っていたけれども、ご自身は鮮やかな手つきで野党議員を指さしている。答弁するふりしつつ、さも野次のせいでまともな答弁ができないような顔つきで、「野次はやめていただきたい」と言う光景も何度か見たが、総理大臣自身が野次、不規則発言で何度もみっともない様を見せてきたではないか。なぜ自分だけが特別に許されるのか、ぜひ説明していただきたいものだ。

そして、もう一つの「特別な」加計学園との「ズブズブ」疑惑について、早く説明を詳
(つまび)らかにしていただきたい。(放送タレント)